

IUHW



31号

The gazette of International University of Health and Welfare

平成12年3月17日 第2回 国際医療福祉大学卒業式



特集

特別企画 理事長、学長に伺う
卒業式・入学式
卒業生の声



発行：学校法人国際医療福祉大学 平成12年4月25日
編集：広報委員会 TEL 0287-24-3000 内線8116
ホームページアドレス <http://www.iuhw.ac.jp>

特別企画

この号は新年度最初の学内報でもあり、大学創立五周年ということもあり、大学の創成と発展のために日夜、心をくだいておられる高木理事長、大谷学長にこの大学や、学生に対する思いを語っていただきました。

(聞き手：宮尾洋子 広報委員長)

高木理事長に聞く

平成十二年三月十七日

第二回卒業式後に収録

……お忙しい日程の中でお時間を頂戴して有り難うございます。早速ですがこの時期、大学の現状と将来の展望についてうかがいたいのですが、



理事長…この学生さんの出身地を見ますと、地元栃木県が二割くらい、北は北海道から南は沖縄まで、優秀な人たちが集まっています。先生方にも熱意をもってやっていたら、基本的には成功してきたと言えましょう。どんな組織でも初めの基礎作りは十年は必要で、五年経った今年にはちょうど創成期の折り返し点ともいえます。これからの五年間の課題の一つには、開学当初それぞれの分野のトップの先生方をお迎えしたのですが、その教員の質の高さを保つこと、第二に新設の大学で、色々学生さんには不便をおかけした面もあったかと思いますが、設備面の充実ということですね。この四月には学生のロビーや、大学院研究室、基礎医学研究センターなどを整備したし棟が完成し、ある程度の水準に達するのではないかと思います。又この種の施設では多分日本一になる重症心身障害児施

設と身体障害者療護施設を擁する、国際医療福祉リハビリテーションセンターが出来上がり、お世話になっている他の実習施設と密接に連携して、学生の臨床実習教育がトータルにできるようにあります。

……本日五三四名の卒業生を世に送り出しましたが理事長は本学の卒業生にどのようにあつてほしいと望んでおいででしょうか？

理事長…医療福祉の専門職として学問的な素養と人間性を両立させるというのは基本的なことだと思いますが、具体的な人生設計においては自分のプライオリティをきちんと持つということでしょう。例えば、経済的に恵まれなくても海外でボランティア的な仕事をやりたいとか、それとも経済は大事だと考えるのか。あるいは、病院や行政の組織で働いて一定の評価を得て、組織の中できちつとしたポジションを手に入れたいという考え方もあると思います。最初から自分の意識や意志を明確にし、つまり、人生に何を望むのかをはっきりさせて、悔いのない人生を送ってほしいと願っています。

……今日の卒業式の式辞の中でも触れられましたが、今年はいんぽう保険制度元年ということですが、この大学や卒業生がこの制度とどう関わっていくことになるのか、理事長のお考えをお聞かせ下さい。

理事長…いんぽう保険自体はまだ改善されなければいけないことが残っています。例えば認定の問題、保険者が市町村単位であることとか、保険料徴収の問題等もあります。本来これは、医療技術専門家が医師と対等に討論しながらやっていくべきなのですが、実際、病院という場面では難しさが残る面もあります。いんぽう保険というのは、看護婦さんとか、理学療法士、作業療法士等が事業主となって、在宅

の方々の介護等をやっている法律上の制度の基盤が整ったということですね。場合によっては、十年後、二十年后に私共の卒業生が手を取り合つて、在宅の分野の事業に参入されて、又それが上場されたり、又地方でデイサービスセンターとか、ヘルパーステーションとか、訪問看護ステーションを自分で起こされるということも、これからは制度上可能になるということですね。アメリカの病院などに行きますと案内をしてくれる広報室長とか、建築部長とか管理部門のトップの人たちが、もとは看護婦さんだったり、作業療法士だったり、理学療法士だったりすることがよくあります。そのようにコメディカルの方々が活躍できる領域が増える、そのための基盤が整ったということでは評価できるのではないかと思います。

……理事長のお話を伺っています、ますますこの大学の卒業生の将来の活躍について夢が広がっていくように思えます。この大学はコメディカルの総合大学であるというのは強みですね。



理事長…まさにこの大学の卒業生たちが全国でネットワークを作つて、事業体として日本の在宅ケアとかその分野をリードするという可能性もあるわけですね。そのためには、専門だけではなく、経営の勉強、社会常識、情報処理能力も相当重要になってくるということですね。それで今回私共のグループで始めました衛星放送を使つた生涯教育についてお話ししておきたいと思えます。既にアメリカにはネットや通信衛星を使つただけの大学や大学院が多数あるということですね。我々の大学としても、ネットや衛星放送による教育システムの基礎的な研究と参入をしなければいけないと考えて、スカイパーフェクトTV774チャンネルを使つて、この卒業生とかヘルパーとかケアマネジャーの方々の生涯教育を衛星放送を通して行うというシステムを作りました。

生涯教育の一環として、このネットを使つて、大学院も例えば三十歳になつたらマスターコースを取るか四十歳になつたらドクターコースに進むとか、全国的に展開できるようにシステムを構築できるまでになつたらと考えております。

……ご多忙の中、ますます夢がふくらみ、元気が出てくるようなお話を有り難うございました。

(付記)

卒業式後のいくつかの会合の合間にこのインタビューのために三十分を割いて頂きました。事前に打合せをする時間もなく、まさにぶつつけ本番で情報メディア部のスタジオでビデオ撮りをしたのですが、「立て板に水」とはこのこと、質問に的確、明瞭に答えられ、さらに広がりのあるご意見を頂きました。楽しく、楽なインタビューでした。直後、謝恩会出席のためにふれあいの丘へとあわただしく席を立たれました。理事長、ご多忙中まことに有り難うございました。(宮尾洋子)

大谷学長に聞く

平成十二年四月六日
第六回入学式後に収録

……今日は入学式に始まって色々行事が続いておりましてお忙しい中、又お疲れの所、学内報のためにお時間を頂きまして有り難ございます。学長にはこの大学の創設以来、大学の精神的バックボーンとしてご指導頂いております。早速ですが、学長はこの大学、学生の教育についてどのように評価なさっておりますでしょうか。



学長…大学の建学の精神というものはある程度先生方に浸透してきていると思っておりますが、実質的にそれがカリキュラムとか学生の日常生活にきちり反映して、卒業生が大学のアイデンティティとして世間から認められるようになるかどうかは、もう少し努力しなければいけないと思えます。すでに卒業生を二回送り出し、何となく伝わってくる話なのですが、それなりにこの大学の卒業生であることを誇りに思っておりまして、嬉しく思っています。

……学長はいつも若い学生たちと色々な機会を作られてお話し合いをされる努力をなさっているように拝見しておりますが、この学生さんたちをどのように見ておられるのでしょうか。

学長…それはですね、私がこの大学に来る前に持っていた一般的な若者観に比べれば、認識を改めるといつか、純真な若者たちで、希望と、可能性を見出してますね。問題はむしろ大人たちで、この純真な若者たちが理

想に向かつて世の中で活躍できるようにできるかどうか、大人たちが反省すべきことがあると思えます。私は役人ばかりやっておりまして、若し人といつても役所に勤めている人たちを通じてでしたから、大学に来てこの無垢なる者に接して、大人というか、日本の社会の責任について反省しますよ。私は教育に可能性があると見ております。

……この大学が創設されて以来、過去五年間の変動の時代でもありましたが、ますます変化のスピードが速まっていく時代に、今日新入生を迎えたわけですが、このような時に、私たちの世代がどういふことを学生に望んでいるのか、戸惑いも感じますが、学長はどのようにお考えでしょうか。

学長…私の青年期は戦前の教育を受けており、当時はあまりにも社会への奉仕、国家を優先するということが言われて、それが反省されて戦後は個が主張されるようになって、それは正しいとは思いますが、それが行き過ぎて個人のエゴイズムが出てきています。



人間は社会の中で生きていますので、そこから、どういふ風によき社会を作るかその責任というのを考えなくては行けない。医療福祉の人だけではなく、本来、政治家とか行政官の責任です、経済に携わる人たちの問題でもあります。ですから、学生さんたちには医療福祉の技術の勉強と同時に人間性、社会性について考えてほしい。いつも私が言っている「共に生きる社会」を建設するために努力しなければいけないと思うのですよ。

……今日、入学式で東京医大の渋谷学長の祝辞がありまして、その中で「自由というものは時にはとても辛いものである」といふ言葉がございました。感銘と共感を以てお聞きしたのですが、学長は自由ということについて、どのようにお考えでしょうか。

学長…自由というものはひとりのものではない、万人のものだと思います。自分が自由でありたいと思う時には、相手も、社会の全体の人たちも、私たちの対象者である病気の人の、障害を持つ人も皆自由でありたいと思っているわけですね。お互いの自由を認め合わなければいけない。自分だけの自由などは許されないといいことを皆が知らなければいけないのです。自由という言葉はすべての制約がないというようにとりがちですが人間が社会の中で生きていく限り有り得ないことですよ。そこに自己責任、お互いに相手の立場を認めるということが出てくるわけですよ。人権、自由、権利への意識はすべての人に平等にあるということをお忘れはいけません。自由、権利、自己責任、お互いに相手の立場を認めるという

頂いておりますが、これは大変なご本ですね。先生の一生のお仕事、国と原告の患者さんたちの両側から審問されるわけですから、この件に関して一言頂きたいのですが。

学長…このらい予防法廃止の問題で、ハンセン病はうつらないから、間違っていたから、大谷藤郎は予防法に反対して撤廃する運動をしたというふうにはお聞きになります。これは間違いなのです。ハンセン病はある時にはうつる場合もある。ただその人を徹底的に一生隔離してしまったり、その家族も大変な負い目を持って社会で生きていくこともできないようにさせてしまったりすることが、その程度の感染力で許されるのかというところなんです。ここがなかなか皆さんに解ってもらえない所ですね。なぜ私がらい予防法廃止の問題を先生方や学生さんたちに語り続けているかというところ、ミクロ的にも知れないが、この問題を通して、皆さんに人間の自由、人間の権利というものをお互いに認め合うということを考えて頂きたいからなんです。

……有り難うございました。これからもお体をお大事に私共をご指導下さいますように。

(付記)

証人調査

大谷証言は、大谷学長が、昨年八月二十七日、十月八日に熊本地裁で原告(患者側)と被告(国)の両方の証人として証言された記録です。行政官として療養所での患者の処遇改善に奮闘されたこと、差別や偏見の基であるらい予防法をそのままにしていく政策を重ねても、根本的な解決に到らないこと、その反省から退官後らい予防法廃止の先頭に立たれたこと等、生の言葉を通して学長の思想や信条が披瀝されています。一読をお勧めします。平成十二年四月十日、皓星社から出版。図書館にあります。(宮尾洋子)

……最後になりますが、学長の昨年熊本地裁での証言記録が証人調査「らい予防法国賠訴訟」大谷藤郎証言という本になって、今読ませて

平成11年度 国際医療福祉大学卒業式

本学の第2回卒業式は3月17日、本学体育館で挙行政され、534名の卒業生が思い出多い学び舎を後にし、それぞれの進路へと旅立ちました。式には卒業生と保護者、来賓合わせて約1100人が出席しました。総代の村石泰伸さん(放射)に大谷学長から卒業証書が授与され、続いて村石さんと松崎かおりさん(看護)、佐久間加代子さん(理学)、日高玲子さん(作業)、藤田愛さん(言語)の各学科の成績優秀者5名に大谷学長から学長賞が贈呈されました。大谷学長、高木理事長が卒業生にはなむけの言葉を贈ったあと、齋藤清衛県出納長と千保一夫大田原市長がお祝いの言葉を述べられ、卒業生を

激励しました。このあと、卒業生代表の村石さんが「本学で学んだ『共に生きる社会』の実現に情熱を傾け、人の痛みを理解し、安らぎを与えることのできる医療人を目指し、精一杯励んでいこうと思います。常に自分を磨き、自己を築きあげ、責任をもった人生を送ることを誓います」と謝辞を述べました。最後に佐久間さんが代表して、大谷学長に卒業記念品として学術図書目録を手渡しました。卒業生たちは記念写真を撮り合うなどして互いに別れを惜しみながら、各々将来への誓いを新たにしました。

謝恩会

去る3月17日、理事長、学長先生をはじめ、約100名の教職員の皆様のご来席を頂き、大田原市ふれあいの丘シャトーエスポワールにて第2期卒業生謝恩会を開催しました。

保健学部各学科から代表1名が国家試験前である昨年の12月より準備を進めてきました。今回の謝恩会は1期生のアドバイスを頂き、準備を進められると考えていたのですが、会場がなかなか見つからない等々の理由で、実際



大いに盛り上がった抽選会

に行動し始めたのは今年に入ってからでした。しかしながら、アイデアの宝庫星野・福富(看護)、誤差が生じない会計廣水(作業)、交渉なら中里(言語)、店長を呼びだす値切りの野田(放射)、そして笑顔でみんなの仕事ぶりを見守る獅子内(理学)という役割分担で準備を行い、本番を迎えるに至りました。

本番では後輩有志や大学事務局、メディア部のバックアップのおかげでほぼ予定通りに会を進めることが出来ました。また、管弦楽四重奏、吹奏楽部、ハンドベル部、また長尾後援会長のバイオリン演奏のおかげでより質の良い会になったのではと思います。

たくさんの方々に協力を頂いたおかげで、最高のもてなしが出来たと自負しております。ありがとうございました。(平成11年度 実行委員長 獅子内善徳)

表彰される成績優秀者5名



卒業式後に友達と記念撮影

国際医療福祉リハビリテーションセンター開所式にあたって

新学期直前の暖かな4月8日、各界の関係者約400名をお招きして、大学内にあるレストラン棟において国際医療福祉リハビリテーションセンターの開所式が催されました。

このセンターは、なす療育園(重症心身障害児施設50床)、那須療護園(身体障害者療護施設50床)、那須デイセンター(身体障害者デイサービスセンター15名)の複合体で、レンガ作りの3階建ての建物として国際医療福祉大学構内に設置されております。



国際医療福祉リハビリテーションセンター開所式

このセンターは地域の障害者医療・福祉政策の一環として関係者の間で綿密な計画が練られ完成に至ったもので、建物の構造、設備は十分にご期待に添えるように配慮されております。また、国際医療福祉大学の豊富な人的資源を活用し、第一級の医療とリハビリテーションサービスを提供できることが特色であります。入所、外来は、医療法なり障害者基本法などの規制がありますが、相談窓口は常時ひらいておりますのでお気軽にご相談ください。



挨拶される初山センター長

地域の方々に安心して利用していただけるセンターとなるように、職員一同努力を続けるつもりでおりますので、よろしくお願いたします。

(センター長 初山泰弘)

平成12年度 国際医療福祉大学入学式

本学の平成12年度入学式は6日、本学体育館で挙行され、新入生と保護者、来賓の合わせて約1600人が出席しました。式では保健・医療福祉両学部の新入生818人の入学が大谷学長から許可された後、大谷学長と高木理事長が式辞を述べ、保健医療の道を志した新入生を激励しました。続いて渡辺喜美衆院議員、高松征雄県保健福祉部長、渋谷健東京医科大学長がお祝いの言葉を贈りました。このあと、新入生を代表して井上篤亮さん（経営）が「医療福祉の分野で人々のお役に立てるよう努力したいと思います。夢の実現を目指し、国際医療福祉大学生としての4年間を、たゆまぬ努力で学業に励むことを誓います」と誓いの言葉を述べました。



また、本学大学院の入学式は7日に行われ、41人の第2期生が研究者としての第一歩を踏み出しました。

新入生ご父兄の声

入学式後、新入生を歓迎し盛り上がる中、ご父兄にインタビューすることができました。本当に嬉しそうな笑顔が印象的でした。ご協力ありがとうございました。



「大変いい大学に入れ、いい先輩方に恵まれながら4年間やっていける。」と思うと幸せですね。

大学で多くのことを学び卒業したら、これからの高齢化社会に役立つ仕事をしてもらえればと願っています。



私は今日、姪の付き添いできたのですが、すごく楽しそうな雰囲気なので、十分に楽しんで4年間過ごしてほしいと思います。

4年間健康でがんばってもらえれば、それが一番です。

学校も広くていいですね。今後ともよろしく願います。



待望の大学院棟完成！

大学レストラン棟の西側に隣接した閑静な場所に建つ、東西70m東端が南へ直角に30m伸びるL字型の「白」く輝く格調高い建物であります。1階は学生談話室、国際交流センター、同窓会室など共有部門となり、2階が形態、生理実験室、動物飼育室などの基礎研究部門が設置される予定になっています。3階、4階は院生と教員の研究室、5階は350㎡の2部屋が多目的用に温存されています。将来、大学の西側に広い道路が貫通すると、まさに大学の顔とも言える建物となります。

去る4月7日、国際医療福祉大学大学院、第2期生41名の入学式に続いて、この大学院棟1階の学生談話室で歓迎会が開かれましたが、参加された中国リハビリテーション研究センターの皆さんからは、素晴らしいという賛辞が続きました。

本日午後、春風に吹かれながら、暖かな日差しに映える大学院棟前の石畳に立ち、将来、この大学院棟の機能が全回転し、この学び舎を活用した本学の職員、院生の皆さんが、優れた研究成果を国内外に発信する日の近いことを祈念いたしました。（大学院院長 初山泰弘）



白く輝く大学院棟（L棟）

学生達の憩いの場所になりそうですね

本学にて日中合同会議を開催

那須遠隔リハビリテーション医療教育プロジェクト

4月7日に、那須遠隔リハビリテーション医療教育プロジェクトの第5回目の中国側の代表者との合同会議を本学で開催しました。中国側からは湯小泉中国リハビリテーション研究センター所長、崔三生副主任等6人が出席されました。会議の内容は、これまで日本側から9回、中国側から3回の教育プログラムの発信内容を中心に、平成11年度の活動の報告、及び平成12年度の活動計画について双方で報告をし合い討議を行いました。本プロジェクトの教育プログラムの作成・送信技術の向上の成果はもちろんです。教育プログラムの交流を通して本大学と中国リハビリテーション研究センターとの交流で得られた交流の成果は、まことに大きいものがあります。会議の後、双方の会議参加メンバーで食事が持たれ、率直な意見交換もなされました。今回の会議を通してお互いに充実した時を過ごすことができ、今後の研究の励みになりました。



日中合同会議の様様

（プロジェクトリーダー 杉原素子）

お知らせ

同窓会会報「とちの木」第1号発刊

同窓会報「とちの木」第1号が遅くなりましたが発刊に至りました。同窓会初年度ということで制作に戸惑い、当初予定していた発刊日より遅くなったことは残念ですが、会報として恥ずかしくないものが出来たと思っています。

この4月から同窓会「マロニエ会」設立2年目を迎え、2期生や準会員も加わり、さらに大きな会となります。現在、同窓会入会のご案内をいたしておりますが、講演会や他事業など「皆様のためになる会」として、がんばっていきたいと思いますのでご入会の方よろしくお願ひいたします。

また、平成12年7月1日(土)には1周年記念パーティーを予定致しております。準会員の皆様も卒業生と会える機会ですので、ぜひ、ご参加ください。(同窓会会長 吐師 秀典)

同窓会事務局

〒324-8501 栃木県大田原市北金丸2600-1
TEL: 0287-24-3003 FAX: 0287-24-3100 (国際医療福祉大学)
e-mail: office@maronie.uhw.ac.jp

大学来訪者(99年度後期)

- 10/ 6 栃木県 土地利用対策委員会
- 10/15 福島県立光南高等学校 教員・生徒
- 10/20 アジア婦人友好会
- 10/26 茨城県立那珂湊高等学校 教員・PTA
- 10/26 富山県魚津市議会 拠点都市特別委員
- 10/29 栃木県立氏家高等学校 教員・生徒
- 11/ 2 大田原市西地区公民館 家庭教育学級
- 11/ 6 高門宮憲仁親王殿下
- 11/ 9 栃木県立学校事務長会 芳賀支部会
- 11/ 9 茨城県医療福祉協議会 県西支部
- 11/10 黒羽町立川西小学校 教員
- 11/11 鹿沼市養護部会
- 11/11 下都賀郡老人クラブ連合会
- 11/15 医療法人高邦会
- 11/19 宇都宮市民生委員
- 児童委員協議会障害福祉部会
- 11/22 矢板市ボランティア連絡協議会
- 11/22 那須町高原公民館 移動教室講座
- 11/24 医療法人高邦会
- 11/26 社団法人日本医療経営コンサルタント協会
佐賀県支部・大分県支部・群馬県支部
- 11/29 栃木県立小山高等学校同窓会
- 12/10 常陸宮正仁親王殿下 同華子妃殿下
- 12/15 静岡県熱海市議会議員・熱海市役所職員
- 12/16 栃木経友会
- 2/ 9 保健衛生指導者セミナー(JICA主催)
- 3/24 国立高崎病院

入試事務室

平成12年度入試の結果が、下記の通り集計できましたのでご報告します。

学科	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
看護学科	962	908	229	127
理学療法学科	1976	1930	152	103
作業療法学科	879	856	170	102
言語聴覚障害学科	554	540	144	103
放射線・情報科学科	641	623	212	129
医療経営管理学科	374	368	257	125
医療福祉学科	614	573	206	129

図書館

第2回卒業生による寄贈図書

3月17日の卒業式当日、第2回卒業生ご一同様より30冊を超える生理学・解剖学などの医学専門図書を寄贈していただきました。図書館として心から感謝する次第です。しばらくは、卒業記念図書としてまとめて配架してありますので、どうぞご活用下さい。

利用者アンケート

利用者の意見をできるだけ反映させるため、図書館内にアンケートボックスを設置しました。建設的なご意見を期待いたします。(飯沼一浩)

田村助教授が吉村記念厚生政策研究助成基金の対象者に決定

医療経営管理学科の田村誠助教授はこのほど、保健医療の分野において優れた研究に贈られる平成11年度(第13回)吉村記念厚生政策研究助成基金の助成を受けました。今回選ばれた田村助教授の研究テーマは「マネジドケアで医療はどう変わるのか その問題点と潜在力」で、今後の医療の在り方を考察したものです。同基金は元厚生省事務次官の故吉村仁氏の遺志により昭和62年に設立されたもので、医療保障や厚生行政などの分野で卓越した研究と認められた調査・研究が対象です。10年度までに23件が助成を受けています。

学生課

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また2年生以上の方は進級して心を新たにされていることと思います。

学生課は学生の福利厚生や就職を主に扱っています。そして皆さんへの連絡は掲示板によって行っています。特に新年度当初は、奨学金、定期健康診断、交通安全講習会等、学生課関係の連絡が多数出されますので、毎日登下校の際には掲示板(学生課、各学科共)に十分注意してください。

さらに大学院棟(L棟)の開設に伴い、その1階にも大型掲示板が新設され、学生課関係の情報が掲示される予定です。移動・L棟での業務開始日については後日掲示しますので、指示に沿って対応してください。

イブニングタイム公開講座

今年度は「ことば」というテーマで、8回にわたって「ことば」について、さまざまな角度からお話いただきます。全講座に手話通訳が付きます。教職員・学生も奮ってご聴講ください。

日時: 5月18日~7月6日まで、毎週木曜日6時限(午後6時から7時半まで) 会場: F棟101教室

受講料: 一般1回500円、全8回3,000円、教職員・学生は無料

申し込み: 開講日当日、F101教室前にて受付をします。学生は学生証を提示して下さい。

スケジュール:

- <第1回> 5月 18日 <正高信男氏> (京都大学霊長類研究所助教授): 0歳児の「ことば」
- <第2回> 5月 25日 <田中 清氏> (NHK手話ニュースキャスター): 手話という「ことば」
- <第3回> 6月 1日 <江藤 寛氏> (劇作家): 演劇と「ことば」
- <第4回> 6月 8日 <笹沼澄子氏> (国際医療福祉大学大学院教授): 失語症の「ことば」
- <第5回> 6月 15日 <千保一夫氏> (大田原市長): 市政と「ことば」
- <第6回> 6月 22日 <畠山卓朗氏> (横浜市総合リハビリテーションセンター主任研究員): 神経難病と「ことば」
- <第7回> 6月 29日 <加藤健治氏> (元NHKチーフディレクター<ラジオ深夜便担当>) 放送と「ことば」
- <第8回> 7月 6日 <久野能弘氏> (中京大学心理学部教授): 「ことば」の檻(おり)

問い合わせ先: 国際医療福祉大学事務局 総務課 企画係 電話: 0287-24-3000



部会・委員会報告

国際部

国際交流委員会・国際部報告

- 1) 国際保健協力フィールドワークフェロシップ、平成11年度(12年3月実施)と12年度(12年8月実施)の研修参加者が、各学科と当委員会の推薦を受けて決定しました。11年度国内研修(3月7、8日)に、根岸葉子(看護1年)、小林友美(理学2年)、中西まゆみ(作業1年)、小林基子(言語2年)、鈴木淳平(放射3年)、瀧田晶子(福祉3年)、国内・海外研修(3月9 - 17日)に石井稚子(経営3年)の皆さんが参加し、有意義な研修ができたようです。海外研修については石井さんの報告(下記)をお読み下さい。なお、研修に先立ち、学長と参加者の活気あふれる懇談会が2月17日に学長室で行われました。紀伊國医療福祉学部長のほか、委員会から田中美子および長谷川豊が同席しました。
- 2) 2月9日、開発途上国の保健衛生行政に関する高級行政官17名と随行者、計22名が来学し、学長、紀伊國学部長、宮尾語学センター長および委員会・田中美子から大学の概要を説明し、その後学内を視察されました。
- 3) 山崎国際部副部長兼国際交流委員は、JICA・ケニア国医療技術教育強化プロジェクトのチーフアドバイザーとして、1年の予定で2月13日にケニア医療訓練カレッジへ赴任されました。出発に先立ち、関係者により1月25日に歡送会を行いました。
- 4) 2月27日 - 3月8日、国際部・長谷川が前記 JICA ケニア・プロジェクトの運営指導調査団に参加し、ケニアを訪問しました。
- 5) 従来の国際ボランティア・研修活動が12年度より単位認定科目となるので、当委員会、教務委員会、東京事務所の国際担当者協力して、計画を立てています。
- 6) 厚生省・国際医療協力研究委託費による「開発途上国大都市の公衆衛生対策のための国際協力の実施方策に関する研究」の研究協力者、Dr Nguyen Tuan Khoa (ベトナム) と Mr Nyachienga Nyamache (ケニア) が3月13 - 16日に来学、中嶋総研所長、国際部・長谷川らと研究会議を行いました。
(田中美子)

子供たちの笑顔から考えさせられたこと

フィリピン研修に参加して

密度の濃い研修内容、加えて他の参加者の国際保健に対する知識や目的意識の高さに圧倒され、目の前のものを吸収することで手いっぱい10日間。そんな中、唯一心が安まったのは、子供たちと触れ合った時間でした。タガログ語を習ったり、折り紙を教えたりしながら、コミュニケーションをとりました。時折見せてくれる屈託のない笑顔には、本当に心が洗われました。しかし、その背後には自ら物を売り出なければならぬほど逼迫した生活、十分な栄養も取れない現状。我々から見れば、彼らの生活は想像も出来ないほど不便かもしれないけれど、あの笑顔を見る限り、少なくとも子供たちにとって現在の生活は充実しているのではないかと感じました。

国際協力を考える上で大切なことは援助をする側の一方的な感覚でなく、現地の人々の立場に立ったものでなければならないことを実感しました。



S K G K の子供達と

(経営4年 石井稚子)

教務委員会

総合講義「学問との出会い」(前期)のお知らせ

平成12年度の新入生がキャンパスを往来し、若々しい4月の活気が何とも嬉しい。今年の入学式において、学生は、大学で学ぶことの意味を学長や来賓の方々から畏まって聴き入ったことと思う。学生が大学で学ぶことの意味は、本学の教育に期待されていることにつながるわけだからそのまま教員の心にもずしりと重く響く。本学の教育は、医療福祉領域の専門職を目指すものであり、加えて情報操作技術、英語などにも力を入れている状況から、どうしてもすぐ役に立つ「実学」中心となる。そこですぐに役に立たない学問領域である文学だとか哲学だとかのおもしろさを教える場所として、昨年「総合講義」を開講している。今年は、前期毎週水曜日6時限目にF101教室で、本学の総合教育系・基礎医学系の教員の方々を中心に、大きなテーマを「学問との出会い」と題して授業をスタートした。1年生に限らず全学生諸君、講義に耳を傾け、時にゆっくり自分自身を確かめ、育てよう。
(杉原素子)

紀要委員会

紀要第4巻の編集作業を行っているところですが、作業終了を迎える前に平成12年度に入ってしまった。これまでに第8回紀要委員会を11月16日(火)、第9回を12月21日(火)、第10回を1月25日(火)、第11回を2月15日(火)、第12回を3月21日(火)に行ってきたので、毎回のよう迅速化を論じておりますが、投稿者、査読者、委員会の間での審査論文の遣り取りに貴重な時間が取られております。

紀要第5巻は原稿締切日を過ぎましたが、ご投稿予定の先生の中に未だ原稿未着のものがあります。是非とも早急に脱稿をお願いいたします。
(野原功全)

就職委員会

就職率100%実現

本学は、3月17日第二回卒業式を行ったが、本年度も世間一般の厳しい就職戦線とは異なり、5学科のうち看護、理学、作業、言語の4学科は、就職希望者のほぼ全員が就職するという好成績をあげた。放射線・情報科学科は、少し苦戦しているが、それでも3月末現在約80%を実現している。

12年度は、いよいよ医療福祉学部の2学科も加わり7学科がそろるので、大学では大学院棟に就職部を設置して万全の体制で望むことになった。

公務員講座開始する

12年度の民間の採用試験はすでに開始されており、公務員試験も近づいている。そこで、昨年に引き続き4/15 ~ 5/20にかけて公務員試験受験対策講座を開講する。
(鈴木五郎)

ボランティア委員会

障害施設のボランティア受入れ準備

ボランティア委員会では、いま三つの作業をしている。一つは、4/1にオープンした重症心身障害児施設内にボランティアセンターが設置されたので、これを活用してボランティアの受入れや相談、斡旋の体制をつくっていくこと。

二つ目は、4/11火曜日に学内ボランティアサークルと委員会が意見交換を行い、学内のボランティアオリエンテーションの開催について打ち合わせをする事。

三つ目は、大田原市内でボランティア関係市民団体45団体が共同して“集い”の開催準備をしているので、大学の委員会も世話人団体の一員として、これを推進していくことである。
(鈴木五郎)



国際医療福祉リハビリテーションセンター

卒業生の声

今回、国際医療福祉大学 第二期生 卒業記念として、卒業生全員にインタビューすることができましたので、その中からできるだけの方を紹介したいと思います。この他にも文章に表せない、ユニークな方もたくさんいらっしゃいました。ご協力いただき、ありがとうございます。

看護学科



看護を学ぼうと決めて大学の四年間、いろいろな体験を通して人と関わりたいという気持ちがあります。大きくなりました。I've had a very happy time at this university. thanks to teachers and friends.

岡部有美子



いろいろなことがあった四年間でしたが、多くの友人に恵まれて、そして友人や先生方に助け頂いたおかげで、四年間で無事卒業することが出来ました。ありがとうございます。

これからは病気やけがで学んだこと、また献血というサークルを通して得たこと、そして母の死ということから学んだ多くのことをすべて發揮し、自分らしい看護をしていきたいと思えます。これからもよろしくお願ひします。

市川大祐



宇都宮から四年間大学に通うことが、まず精一杯でした。実習を通していろいろな人に出会える事ができ、自分なりに看護から保健婦になりましたが、この初心を忘れずにかんばっていききたいと思えます。

大塚幸江



恋におびえた四年間で、それからこんなに大きくなったのにも、まだまだみんなに育ててもらっているみたいでした。かわいく、かしく、ゆるやかに、みなさんにお返しする番です。かつこいい助産婦になります。ありがとうございます。

田中美幸



楽しい思い出はたくさんありますが、強烈な思い出をひとつ。ダンスに防虫剤を入れるのを忘れ、小さな黒い虫が発生しました。これからは、清潔な生活をしたいと思えます。中澤真弓



お父さん、お母さん大学に出させてくれてありがとうございます。まだ、学生生活を続けたいな。っていうくらい楽しい四年間でした。これからは立派な社会人になれるようにがんばりたいと思えます。

長井美冴子



ここで四年間過ごして、すごく個性の強い人たちとであって人生観変わったちゃいました。お父さん、お母さんごめんなさい。麻樹は少し実家に帰りますが、三十歳までには結婚するので許してください。

村瀬麻樹子



大学で青春させていたいただきました。最近はいろんな他大学の方と交流が多く、あつ、この大学ってやっぱりレベルが高いんだな。って自分でも思えます。みんなも自分に誇りを持ってこれたらがんばってください。私はこれから横浜に帰って、孫の子守りをしながら余生を過ごしたいと思えます。ありがとうございます。金子真理子



私は、実家から片道三時間かけて大学に通いました。最初は通い続けることができたかどうか心配でしたが、友達に支えられながら四年間無事過ごすことができました。支えてくれた友達にすごく感謝しています。

これからは保健婦として、地域住民の健康の保持、増進に係わっていきつくりたい。この大学で学んだことを生かして、よりよい看護職の一員になれば幸いと思えます。島田智子



四年間はあつという間で、楽しい友達にあえて本当に楽しい学生生活でした。これからもいつも笑顔でいられるような人生を送っていききたいと思えます。森 祐子



四年間で、たくさんの友達と思い出ができました。また、ほんどの時間を酸素が足りないくらい息もせず自分が話して過ごしてしまつたことを反省しています。これからは酸素をいっぱい吸って、ゆっくり話そうにしたいです。そして、相手の言っていることにしっかり耳をかたむけていきたいと思えます。南條公子

理学療法学科



私の四年間は、本当に充実したものでありました。理学療法士の委員長としてみなさんにいろいろと支えていただき、本当にありがとうございます。これからも精一杯がんばっていきこうと思えますので、よろしくお願ひします。河合玄太



この大学に入学して様々なことがありましたが、一番印象的だったのは臨床実習です。臨床上に携わる先生方に変化が世話になりました。これからは、先生方に負けないようなPTになりたいと思えます。森 俊明



勉強、娯楽、そして部活動とオールマイティーに取り組みることができ、特に人間関係を自分なりに学べたと思えます。これ人間味のあるPTになりたいと思えます。浦崎 謙



一番の思い出は、口頭試問でみんなががんばったことです。卒業してからいろいろな情報交換などをして、みんなががんばっていきましょ。奥田求己



私は熱気球部に属していて、毎日空を飛んでいました。「地球は丸いな」と思い感動したのを覚えてます。清野昭宏



四年連続、大田原マラソンに出場しました。これからも、活動的に取り組みたいと思えます。南谷さつき



この大学でPTを目指すことができて良かったです。いつまでも、PTになりたいと思つたときの気持ちを忘れずに、がんばっていききたいと思えます。坂本昌世



大学に入つてはや四年、時の流れは早いものだと最近良く感じます。大学四年間、ダンスしかしていなかった気がします。熱い青春を過ごすことができて、良かったと思えます。大河原律子



誰もが笑つて過ごせるような世の中を夢見て、この大学に入りました。いろいろな方々に世話になりなかなか独り立ちできませんが、みなさんこれからも宜しくお願ひします。石井義之



長かったようで、短かったよな気がします。私自身、身体的にも社会的にも、そして精神的にも鍛えられたよな気がしています。安藤在子



沖繩を出てきて四年間経ちましたが、気候にまったくなれませんが、しかし、ここ大田原に残るようになりまし。しばらく沖繩には帰れそうにありません。どうぞ、今後とも宜しくお願ひします。糸数昌史

作業療法学科



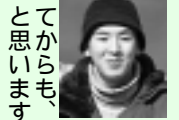
私はこの大学四年間で、良い友達がたくさんできました。そして、すぐきれいな自然の中でドライブに行ったことなど、楽しかった思い出ができました。角南裕子



この大学に来て多くの人のとの出会いがあり、仲間がたくさんできました。そして何よりも射撃というスポーツに出会えたことが、とてもよかつたと思つています。廣水真奈美



もっといろいろなことにチャレンジしたいと思えます。日野公広



大学四年間はいろいろなありました。また趣味と学業の両立は難しかったですが、友達と仲良くできてよかったです。卒業してからも、いろいろなみなで会えたら良いと思います。
山田孝弘



厳しくも、楽しかった四年間でした。これからもよろしくお願います。
柳 正直



大田原はすごく寒くて、朝がつらかったです。四年間で卒業できてよかったです。
山形文字



那須に行ったり、楽しく過ごせました。この四年間が実践で役に立つように、これからもがんばっていききたいと思います。
工藤雅子



国際医療福祉大学に入れて、本当によかったです。先生方、本当にどうもありがとうございます。杉原先生、大ファンです。一生現役でがんばります。
渡邊真奈美



大学四年間、いろいろな思い出ができました。気球に乗って、空をフワフワ飛ぶこともでき、本当に楽しかったです。
桑山典子



栃木に来て最初はどうなるかと思いましたが、とても楽しい四年間でした。今、栃木を離れることはちょっと寂しいですが、ここで生活したことを忘れないでがんばっていききたいです。皆さん四年間ありがとうございました。
家元典華



大学生活での一番の思い出は、学園祭でグアム旅行を当てたことです。そして、友達とグアムに行き、買い物しまくったり、夜寝る間も惜しんで一杯遊んできました。
一木弘子

言語聴覚障害学科

大学四年間で音楽活動をやることができたことが、一番思い出として残っています。これからも、音楽を続けていけたら良いと思います。
塩田能久



四年間大田原で過ごして、多くの友達と出会うことができた。いろいろなことを相談できる友達や、励まし合える友達に多く出会えてうれしかったです。
真鍋理恵子



大学に来て友達ができるいろいろな不安でしたが、いろいろな出身の人と友達になったり、初めて吹奏楽をしたりというりと経験できて良い四年間でした。吹奏楽はこれからも続けていききたいです。
高松佳加



四年間たくさんの方に友達に囲まれて、泣いたり笑ったり楽しい大学生活を送りました。私は、大田原の星空がとてもきれいで大好きです。
藤田愛



大学に来て、初めて一人暮らしを体験しました。これから地元茨城県に戻りますので、STの重要性を地方にも広げていきたいと思えます。
黒羽真美



四年間はあつという間でした。この大学でしかできなかったことと、この大学でしか会えなかった人たちを大切にしたいです。同業者としてみんなと仲良くやっていきたいです。
大金さや香



足利から大田原に来て、同じ栃木県でも気温や言葉が違ってはじめはびっくりしましたが、みんな良い人ばかりでとても楽しかったです。もつと大学生活を送りたいです。これからまた新しいところがんばっていきこうと思えます。
長谷川裕子



私たちがいる間に、大好きな大田原の町並みが変わりました。これから温泉に入れなくなったり、星空が見れなくなるのはすごく寂しいです。
田近春奈



大田原に来て、ドライブに行ったり、パーベキューをしたり、川で遊んだり、ここでしかできないアウトドアな遊びをたくさんしました。
谷川まどか



大学生活での四年間は、非常に良い経験をしました。勉強もそうですが、友達との生活や、社会勉強もできました。これからは尊敬されるようなSTになりたいです。また友人達とのつながりは、ずっと持つていたいと思います。
桜井孝男



四年間の大学生活で学んだことは、いのちの大切さについて考えることができたことです。これから患者さんと接するときには、いのちの大切さというのを考えることができていきたいです。
鳥居良浩

放射線・情報科学科



無事に卒業できてよかったです。この四年間いろいろなことを経験し、いっぱい失敗もしましたが、たくさんの方のアドバイスを学ぶことができました。卒業バンザイ。
鈴木香織



新しいことだらけの大学生活の中で、ひとまわりもふたまわりも人間的に成長できたと思います。これからも立派な放射線技師を目指して、がんばっていききたいです。
提督美夏



かあちゃん、元気か？就職したら、いっぱい飯食わすぞ。
近藤誠



よく学んで、よく遊んで、楽しい生活を送っていきこうと思います。
黒沢由紀子



大学四年間を振り返ってみて、特に人に自慢できるものはありませんが、たくさんの方に恵まれて、私は幸せだったと思います。みんな、ありがとうございます。
吉田美幸



大学へ、東京から新幹線で通いましたが、がんばってよかったです。今では思います。将来は、患者さんのことを思われる技師になりたいです。
湯本享深



四年間は長いようで短かった気がしますが、いろいろなことにチャレンジできました。これからも、自分の興味あることなどいろいろなチャレンジしていきたいです。
久保田裕美



放射線技師になることができて良かったです。一生懸命がんばって、良い旦那さん、良いお父さんになるよう努力するつもりです。
小島徹



楽しい四年間でした。これからは、患者さんに信頼される技師になれるように、がんばりたいと思います。
広田勝義



楽しいことや、つらいこと、いろいろなあった四年間でしたが、自分なりに有意義に過ごせたと思っています。これからは学生生活で得た経験をもとにして、今まで以上にいろいろなことを吸収していきたいです。
山村恭子



四年間一生懸命勉強ができたと思っています。将来はもつと勉強をし、教授くらいまでなつて、学校で女の子に囲まれたたい。
坂口和也



卒業して社会人になつても、情熱と信念を忘れず、生きていきたいです。
川瀬隆志

学科・センターだより

看護学科 旅立ち

三月十七日、まだ肌寒さが残るこの日、色とりどりの鮮やかな衣装を身にまとった四年生が旅立っていきました。それまでの彼らは、確実に何かが変わったのだと思わせる瞬間でした。四年間の成長の集大成であったのかもめれないし、卒業式という儀式が成長を余儀なくしたのかもめれません。それは解らないけれど、学科の卒業式で彼ら一人一人が残した言葉やメッセージには、父兄に学友にそして、学校に別れを告げ、自立していこうという強い意志が感じられ、感動を誘うものでした。自分ひとりで立ちそして歩むという自覚、それは、人に精神的な広がりを感じさせるものでしょう。どうぞ、その瞬間の気持ちをいつまでも忘れずに、どのような困難に出会っても笑って乗り越えていって下さい。

(石川由美子)

理学療法学科

三月三日には国家試験が無事終了し、同日、江ノ島で理学療法学科の打ち上げを行いました。また、三月十五日には理学療法学科卒業生の出発式を、三月十七日には大学全体での卒業式の後、理学療法学科の卒業式が行われました。理学療法学科の卒業式では、会場内のスクリーンに四年前の入学時の写真が映し出されるなか、丸山学科長から卒業生一人一人に修了証が手渡されました。修了証を手にした卒業生のメッセージは非常に感動的でした。炊き出しなどで国家試験の勉強を応援してくれた在校生のみなさんご苦労様でした。(齋藤昭彦)

作業療法学科 新年度スタート

入学おめでとう。対人サービズ業を担うべく第一歩を踏み出された訳で、どうぞこの大学で様々な経験を積み、縦横の人的繋がりを広げて下さい。
新一年生へ
専門科目が増えます。不明な点を放置せ

ず、友人や先輩等最大限活用し、知識・技術の向上を図って下さい。
新三・四年生へ
臨床実習でどんな自己課題を見つけられましたか? 対象者の貴重な時間を戴いて実現した実習です。感謝の気持ちを再確認し、新たな知識の構築・展開に活かして下さい。対象者から戴きっぱなしで終わらぬよう、気を引き締めて意欲的に授業に参加して下さい。(久保田清子)

九十名の卒業生を学科長の暖かい握手で送り出してから、はや一ヶ月が経ちました。春番です。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
言語聴覚士資格が国家資格になる、『言語聴覚士協会の発足する』等、この二・三年の間にST学科にとって頼もしい話題が幾つもありました。学生の皆さんがSTとして現場に出る頃にはさらに活躍の場も広がり、いい仕事ができる環境が整えられていることでしょう。
春眼瞼を覚えず、うとうととまどろんでいる場合ではありません。起きている時に見る「夢」を一緒に追いかけていきましよう。(武智司尾子)

言語聴覚障害学科 新年度開始

いよいよ医療経営管理学科の一期生も四年に進級することになりました。三年前と比べるとすっかり大人っぽくなったのも就職の重圧がそろそろきいてきたからかもめれません。超氷河期といわれる時に日本で初めての学科の卒業という、チャレンジに満ちた年になると思われまます。既に学生は企業訪問を開始しているところですが、昨年夏の四週間の実習で実習病院からインターンを行ってよかったとお申し出があり、感謝しております。しかし、問題は実力で三年、四年次とつづくゼミナールでの努力が期待されます。目の色が変わる新学期と期待しています。(紀伊國献三)

医療経営管理学科

いよいよ医療経営管理学科の一期生も四年に進級することになりました。三年前と比べるとすっかり大人っぽくなったのも就職の重圧がそろそろきいてきたからかもめれません。超氷河期といわれる時に日本で初めての学科の卒業という、チャレンジに満ちた年になると思われまます。既に学生は企業訪問を開始しているところですが、昨年夏の四週間の実習で実習病院からインターンを行ってよかったとお申し出があり、感謝しております。しかし、問題は実力で三年、四年次とつづくゼミナールでの努力が期待されます。目の色が変わる新学期と期待しています。(紀伊國献三)

医療福祉学科 もついに四年目

二年生は、各論的・専門的な科目がグッと増えます。関心をもって勉強! 三年生は、夏休みにいよいよ実習です。体調に気を付けて準備万端に! 四年生は、実習、就職活動、卒業論文、国家試験受験、盛りだくさん、飛躍の一年になります。頑張ってください!
四月から教員も増えました。講師・岩本操先生、助手・直江章子先生と大石剛史先生です。
本年度もよろしくお願いいたします。(本多勇)

健康管理センター 在宅医療への取り組み

訪問看護ステーション発足

前号でお知らせした在宅医療プログラムの中で訪問看護ステーションが二月十五日にスタートしました。おおたわらマロニエ訪問看護ステーションという名前前で当面はクリニック三階に事務所があり、三名の専属ナースが勤務しています。実際の活動が軌道に乗るには時間が必要でしょうが将来は学生実習にも関係するものと思われまます。今後の医療を担う方向の一つでもあり、本年四月からいよいよ発足する介護保険制度における訪問介護との関係も深まるものと思っております。(都築正和)

基礎医学研究センター 新入生を迎えるにあたって

く読めるようになる、練習を積み重ねます。L1ではビデオで実際の会話場面から発話練習をしたり、本学英語スタツフが開発した医療保健、福祉の専門家のための会話表現や英語の発音等を学習します。盛りだくさんのメニューです。楽しんでください。(宮尾洋子)

基礎医学研究センター 新入生を迎えるにあたって

ニューミレニアムに、卒業生を医療界に送り、えらばれて入学された学生を迎え、心新たにしています。過去の経験から、しばしば医療職員の採用に拘りました。採用に当たっては書類選考と、面接によって協調性や人柄を重視して選ばれます。人柄は教養と学識の裏付けによって培われ、実習態度によく反映されることから、病院の実習生の中から採用することも少なくありません。そのひとの人柄は、患者さん達から尊敬されるのみでなく、大学の評価を高めることに大きく貢献することになります。心して学生生活を送って下さい。(飯高和成)

放射線・情報科学科

二〇〇〇年三月十七日(金)の第二回卒業式で放射線・情報科学科から一二名の学生が巣立ちました。目を輝かせ喜びを隠し切れないといった若者の姿を見ました。当学科の村石泰伸君が総代に選ばれたのも栄誉なことでした。式後の昼食会は保護者の皆様と一人ひとりと和やかに懇談する絶好の機会となりました。保護者の喜びは学生以上のごよう、パラサイトシングルを危惧したくなるような情景も見られました。
四月六日(木)の平成十二年入学式では新たに一二九名の新入生を迎えました。新緑の若芽のような皆さんの入学を心から祝福し、歓迎いたします。(野原功全)

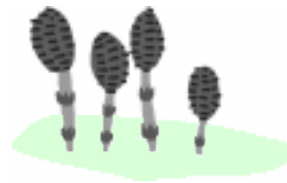
語学教育センター 一年生の皆さんへ

入学おめでとう。さあ、これで受験英語のなやむ面倒な文法や単語から解放された!と思ったら大間違い! これから本格的にコミュニケーションの手段としての英語学習が始まります。先ず、ネイティブの先生との会話クラス。アメリカ、カナダ、フィリピン、チェコと文化背景は異なっても、英語という共通語の教育専門家達です。講義は訳読ではありません。既に身につけた文法や単語を基礎に長文が速

言語聴覚センター 言語障害あれこれ(4)「構音障害」

構音とは発音のこと、子どもは構音障害は大きく二種類に分けることができます。一つは口腔に形態の異常がある場合で、代表的なのが口蓋裂による発音の障害です。口の中の天井が先天的に前後方向にあっていないため、鼻から空気が抜けてしまい、そ

れを防ぐとして正しい発音に必要な口腔内圧が保たず、誤った発音のくせがついてしまいます。手術をして裂を塞いだ後も誤った発音のくせを取り去り、正しい発音を教え直す必要があります。二つ目は器質的に問題がない構音障害でその代表は「赤ちゃん言葉」(サカナ、タカナ、らっぱ、だっぱ)です。就学頃になっても改善しなければ、やはり訓練でおおします。(斉藤佐和子)



教員紹介

各学科・センターからご紹介頂きます。所属・職位 生年 出身校 専門分野 直前の勤め先 主要著書又は論文とちらか一点 本校における担当科目 趣味

近藤 誓子 (コンドウ セイコ)



基礎看護学 成人看護学 映画

久保田 隆子 (クボタ タカコ)



看護学 看護学・講師 一九五七年 関東学園大学大学院 法学研究科(法学修士) 母性・助産学 群馬大学医療技術短期大

学部看護学科 医療事故責任に関する一考察 助産婦業務と産科医療事故との関係 母性・助産学、母性・助産実習 読書

私の研究ノート

今号から大学教員の専門的な研究について、レポートしていただくことになりました。

わが国近代以降における養育責任観に関する研究 医療福祉学科 田澤 薫

少子化が社会問題とされて久しい。子育て支援と称して様々な工夫が施策化されてもいる。

私は、大学で、現代の少年非行の諸問題を大正少年法の法制史から鮮やかに解明してみせる恩師に出会って以来、今日の児童福祉に関する疑問に明治以降の社会制度史や生活史を探ることで答える試みに夢中になってきた。その経験から、どうも少子化対策は本質からずれている面があるような気がしてならない。

現象としての少子化は確かに初婚年齢の高まりや女性一人当たりの生涯出生数の低下の結果であり、それを後押ししたのは人生選択の多様化や女性の高学歴化かもしれないが、問題の根はもっと深いところにあるのだと思う。なぜか、と今はまだ説明できない。しかし、おそらくは、明治民法が子は親の親権に服すると定め、国家に対する親の義務として義務教育制度が定着した辺り、すなわち児童の存在を親と国家の間で明確に位置づけ、同時に子育てが養育の義務と権利の視点から捉えられるようになった近代社会の成立の頃に鍵が隠されているだろう。

近代以前、子どもには実親のほかにも名付け親等々の様々な擬制親があったし、そもそも社会全体が親子を模した人間関係に満ちていたことはよく耳にする通りである。そうした多様な「オヤ」の養育機能が、なぜ親権という形で実親に収斂されなければならなかったのか。(学校教育は学校に対する親権の一部委譲で、児童福祉は in loco parentis (親代わり) の法理で説明される養育の義務と責任を実親のものとする今日の常識は、どのように形成していったのか、それはどのような点に明らかか。以前は分散されていた養育の機能と責任を実親に委ねる現在のありように無理があるからこそ、政策としての「子育て支援」が必要となるのではないのか。これらの問いに答えたくて資料に向かっている。

リレーエッセイ

カウントダウンの瞬間

看護学科 大内章子先生

新しい年が明けました。記念すべきミレニアムを迎えるこの時代に生まれて良かったと思います。さて、皆さんは、カウントダウンの瞬間、年末年始は、どこで、どのように過ごされましたか? 学生に年末年始について、どこへ行くのかと尋ねると、大半の者は、スキーや友達と一緒に旅行へ行くなど、自宅に帰って家族と一緒に過ごす学生はあまりいませんでした。私は、今話題になっている、Y2K問題に対処しようと、水や石油ストーブ、レトルト食品等を買集め、万全の準備をしていましたが、いざ年末になると実家へ帰ってしまいました。実家では、Y2K問題など全く意識しておらず、何も準備はしていませんでした。家族は、紅白を最後まで見ることも無くさっさと寝てしまい、一人でテレビを見ながら、ドキドキわくわくして、カウントダウンの瞬間を迎えたのです。結局、何事も起きなかったのですが、安堵しながらも何かを期待していた自分が空しくなり、私も学生達のようにどこかへ行って、はしゃぎたかったと思いました。今年こそは、絶対ににぎやかなカウントダウンにしたいと今から思っています。

次回執筆者: 新井正一先生(放射線・情報科学科)

情報メディア室からのお願い

情報メディア室では、本誌IUHWとホームページ充実をより一層図るため、広く皆様から情報をお待ちしております。特に学生の皆さんからの熱意あふれた声をお待ちしております。なお情報メディア室はJ棟1階にありますので、お気軽に遊びに来てください。

IUHW クイズ - 第18弾 - 当選者発表

クイズにたくさんの応募をいただきありがとうございます。正解者は5名でした。厳選なる抽選の結果、守屋早苗さん(福祉4年)に当たりました。当選者は学生証を持参の上、事務局まで来てください。なお正解は以下の通りです。

解答

1 _____ 4 _____
2 _____ 5 _____
3 _____

問題

- 次のうち、今回の登録資産に含まれていないものはどれでしょうか?
東照宮 二荒山神社 輪王寺・大猷院 華嚴の瀧
- さて、「日光の社寺」は日本で何番目の世界遺産登録だったでしょうか?
1番目 5番目 10番目 15番目
- 世界遺産に含まれていないものはどれでしょうか?
原爆ドーム 知床半島 金閣寺 屋久島 姫路城
- もう一問、世界遺産に含まれていないものはどれでしょうか?
自由の女神(アメリカ) ピラミッド(エジプト)
パナマ運河(パナマ) アウシュビッツ強制収容所(ポーランド)
グレートバリアリーフ(オーストラリア)
- 世界遺産を扱う国際機関 UNESCOの本部はどこにあるでしょうか?
パリ ベルリン ローマ ロンドン



ナースステーションから

今号から、学生教職員の健康管理へのアドバイスなどを盛り込んだ貴重なご意見を、国際医療福祉病院 平野澄子看護部長から頂くことにしました。ご期待ください。

看護雑感

病気になった時、誰もが願うこと、それは、良い医療・良い看護を受けたいと思うことである。良い医療とは、つまり、良い看護であると言っても過言でない。

しかし、まだまだ患者中心の看護は、単に言葉として、脳裏に刻み込まれているような気がする。実践のない看護は、ただ軽々しく空虚としか言いようがない。私は、患者の心の投影をしっかりと受け止められるような、看護婦になるために一歩ずつ前進したいと思っている。

この一節は、私が26年前看護学生時代に書いたものである。26年前を振り返って言える事は、看護に対する考え方、信念は今も昔も変わっていない事に気づいた。ややもすると、看護婦中心になりがちな場面は幾度となくあったが、常に患者中心の看護と言い続けてきたように思う。今は、年輪を重ねた分考え方が少し柔軟になったような気がする。相手によっては、自分の基準(モノサシ)を長くしたり、短くしたり調節することの大切さを今も学び続けている。

最後に、人の心は温かさ、やさしさを求めます。看護の「看」という字は手と目と書きます。真の看護とは、あったかい目とやさしい手が必要です。

さあ、あなたもやさしいまなざし、柔らかい手を差し伸べてみませんか・・・。



平野澄子 看護部長

私が感銘を受けた本(第3回)

書名：隠されたる神 苦難の意味

著者：山形謙二、出版社：キリスト新聞社

紹介者：作業療法学科 矢谷令子



人間はこの世に生を受けて生き、そして何時か必ずその生を閉じる。夫々がこの営みを繰り返して、どれ程の時が流れどれだけの数の生命が全うされてきたのだろうか。千差万別の人生に波乱や苦難に出逢う時、人は「何故、々々」を繰り返す。本著は著者の豊かな学識と敬虔な信仰生活の中から多くの先人達の考え、言葉、事例に適切な聖句を引用し本題について考えさせてくれる。宗教、信仰の枠を越えての一冊として、病者、弱者ばかりではなく、人生の悲しみに立つ人々との共感者、共に歩む日々の力として本著をご紹介したい。

毎号、教職員あるいは学生に簡単な紹介文を書いていたが、この本を3冊購入して図書館の大谷学長著書の書棚(入って左)に置きます。ご愛読下さい。(図書館長)

東アジア医学生会議に参加して

1月の末から2月の始めにかけてアジア医学生連盟(AMSA)の主催する東アジア医学生会議が台湾で開かれ、日本のメンバーとして参加しました。日本以外にも台湾、香港、韓国、フィリピン、タイの医学生、看護学生等が参加していました。

「医療情報学」というテーマで学生が発表をしたり、討論をしたりしました。僕は『IUHWにおける通信衛星を使用した遠隔地間ハビリテーションシステムの研究開発』について発表しました。その内容が評価され、「特別賞」を頂きました。使用言語は英語で、なかなか言いたい事が伝わらず大変でした。しかし、会議や交流会を通していろいろな友達ができました。

勉強の事や学校の事、スポーツ、趣味の事や悩んでいる事など、考えている事はどこの国の学生も一緒なんだと改めて感じました。

英語によって本当に多くの人と交流できると実感しました。最後に、僕の発表に協力して下さった方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。特別賞を手に日本人の仲間たちと共に



特別賞を手に日本人の仲間たちと共に

したいと思います。有難うございました。(理学4年 長谷川真人)

編集後記

あたらしい季節。静まり返っていたキャンパスがにわかに活気につつまれ、それはあらたな出会いの季節といってもよいかもしれません。ひとつひとつの大切な才能が確実に成長してゆくためには、よい出会いが必要です。生涯の恩師、友との出会い、のみならず、自分自身の隠れた才能に気がつくのもまた、あらたな出会いのひとつ。

あたらしい季節。立ち止まり、そらを見上げて深呼吸をして、それから歩み出そうとするひとつと。その中に、あなたがいます。爽り豊かな一年となりますように。(西尾正輝)

IUHW クイズ - 第19弾 -

賞品はなんと旅行ギフト券(8000円分)!

那須はこれから観光シーズンに入りますが、こんな問題はいかがでしょうか?

正解を記入して事務局窓口外側のメールボックスへ投入してください。正解者多数の場合は、抽選で1名の方に旅行ギフト券をプレゼント。応募資格は本学の学生で、1人1通、締め切りは5月25日です。

問題：5人の観光客(礼、敦、隆、香、望)が栃木の観光に訪れました。5人はそれぞれ、那須高原、那須ハイランドパーク、那須岳、益子、日光、奥日光の6カ所のうち、3カ所を訪れました。(但し、敦だけは2カ所です。)

1. 礼と望が訪れているところは2カ所で、礼も敦も訪れているところは1カ所、敦も望も訪れているところは2カ所でした。
2. 隆と望が共に訪れているところはなく、礼も香も訪れているところは1カ所です。
3. 那須高原に行ったのは4人。那須岳に行ったのは3人、奥日光に行ったのは1人でした。
4. 隆は、日光には行きませんでしたし、香は那須ハイランドパークにはいきませんでした。

さて、誰がどこにいったのでしょうか。

解答用紙

学科 _____ 学年 _____

名前 _____

礼: _____

敦: _____

隆: _____

香: _____

望: _____